

シンポジウム 文化庁補助事業（地域の特色ある埋蔵文化財活用事業）

デー／タメ遺跡が拓く縄文の世界Ⅱ

縄文時代の環境と食



トチノキ

人が割ったオニグルミ

ナラガシワ

クリ

第4次調査区2号クルミ塚

平成30年3月3日（土） 北本市文化センター ホール

【主催】北本市教育委員会

【共催】明治大学黒耀石研究センター 明治大学資源利用史研究クラスター

プログラム

受 付		12 : 00～
開 会		13 : 00～13 : 10

1 基調講演

工藤雄一郎	国立歴史民俗博物館	13 : 10～14 : 10
「縄文時代中期から後・晩期の環境と人々の生活 -年代学の視点から-」		

2 報 告

報告 1	坂田敏行	北本市教育委員会	14 : 10～14 : 30
「デーノタメ遺跡の調査成果 2017」			

報告 2	佐々木由香	明治大学黒耀石研究センター	14 : 30～15 : 10
「デーノタメ遺跡の縄文人の植物食」			

報告 3	米田 穰	東京大学	
	阿部芳郎・岸田快生	明治大学	15 : 10～15 : 50
「土器についているオコゲから食生活を復元する： デーノタメ遺跡と大木戸遺跡から出土した炭化物の 炭素・窒素の同位体比と含有量の分析」			

【休 憩】	15 : 50～16 : 00
-------	-----------------

3 パネルディスカッション	16 : 00～17 : 00
---------------	-----------------

司 会	阿部芳郎
パネリスト	工藤雄一郎、佐々木由香、米田 穰、坂田敏行

閉 会	17 : 00～17 : 10
-----	-----------------

開催にあたって

北本市南部の下石戸下地区に所在するデーノタメ遺跡は、これまでの調査によって、約 5,000 年前に縄文時代中期の環状集落が営まれ、その後、同後期の約 3,800 年前まで集落が継続していたことがわかってきました。そして、集落の北側に面する低湿地では、集落の縄文人が利用した水辺空間が良好に遺存しており、集落と低地がセットで理解できる遺跡として関心が高まっています。昨秋に実施いたしました低地部分の内容確認調査でも、新たに縄文時代後期の泥炭層を確認し、土器や植物遺体、昆虫遺体等が検出されています。

昨年度に開催いたしました第 1 回目のシンポジウムでは、大勢の皆様のご参加のもと、デーノタメ遺跡の概要をお知らせするとともに、縄文時代の植物の栽培管理や漆工芸、遺跡の保存と活用について考える機会といたしました。

第 2 回目となる今回は、「縄文時代の環境と食」をテーマに、縄文時代の環境変化と、デーノタメ遺跡から出土した植物遺体や土器に付着した炭化物などから、縄文人の食の実態に迫ってまいりたいと考えております。

本企画がデーノタメ遺跡の理解を深める一助としていただくとともに、本市の歴史や文化財に対する興味・関心を高めるきっかけとなれば幸いです。

本シンポジウムの開催にあたり、さまざまなご指導を賜りました明治大学の阿部芳郎先生を始め、ご講演、ご発表をご快諾いただきました各先生方、ご協力いただきました関係機関、各位に対しまして厚くお礼申し上げます。

平成 30 年 3 月 3 日

北本市教育委員会
教育長 真尾 正博

目 次

開催にあたって

- 1 「デーノタメ遺跡とはどのような遺跡なのか」
北本市教育委員会文化財保護課 1
- 2 「縄文時代中期から後・晩期の環境と人々の生活 一年代学の視点から」
国立歴史民俗博物館 工藤雄一郎 3
- 3 「デーノタメ遺跡の調査成果 2017」
北本市教育委員会 坂田敏行 7
- 4 「デーノタメ遺跡の縄文人の植物食」
明治大学黒耀石研究センター
株式会社パレオ・ラボ 佐々木由香 11
- 5 「土器についているオコゲから食生活を復元する：
デーノタメ遺跡と大木戸遺跡から出土した炭化物の炭素・窒素の同位体比と
含有量の分析」
東京大学 米田 穰
明治大学 阿部芳郎・岸田快生 17